

現代上海大学生の読書傾向について

葉駿^{*1*}、張健^{*2}、郭亜貞^{*2}、梁暹^{*2}、方如偉^{*3}

^{*1}九州女子大学人間科学部（客員教授）

^{*2}上海海洋大学、中国上海市臨港新城滬城環路999号（〒201306）

^{*3}九州女子大学人間科学部人間文化学科、北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1（〒807-8586）

（2009年10月5日受付、2009年11月17日受理）

要旨

読書傾向とは、読者の読書の欲求を読書行為にする読書特徴の趨勢を指すもので、読書の主体が読書に対する審美的な感情や審美的な感想の表現であり、特定時代の特定読者集団の読書ニーズを直接的に反映するものである。

読書行為は、複数の心理活動が加わる複雑な知的活動である。読書の心理状態とは、人間が読書活動をする特殊な情感であり、特定時代の特定読者集団の心理特徴を指すものである。現実生活にいる人間の情緒状態や要求等の心理意識は、連続性のあるものである。読書行為の発生と過程では、読書主体（読者）の異なるニーズ、期待、感受、体験、連想、想像等の特定の審美的心理と認識のメカニズムによって、読書活動の全体に及ぶ効果を与え、強い決定的な結果をもたらす可能性も秘められている。

今日の社会では、情報とネットワークの普及や価値観の多元化によって人々の生活体験と活動に大きな変化と影響をもたらしている。大学生という特定の読書集団も、例外なくその読書の習慣や行為そして考えかたは絶えず変わり続けている。

高等教育に携わっているわれわれは、学生を立派な人材に育てあげるという職務本位の立場に立って今回の調査を行い、統計データと分析を通して、上海大学生の読書傾向と心理状態を把握しようと考えている。

1. アンケート調査について

われわれは、上海大学生の読書傾向と心理、読書指導、読書心理、読書選択、読書心理と心理健康の関係等を調べるため、異なるタイプの大学を対象に、出身地別、専攻別、性別、学業成績別に分けてアンケート調査を行った。また、在学期間中の変化や入学前と入学後の変化、さらに読書と教員（指導）、ネット読書等の関連も含めて調べた。それに基づき、われわれは、学生に対する読書指導とサービス業務に関わる大学図書館、更には大学全体のあり方を検討し、その具体策を出してみたいと思う。

調査対象校は、華東師範大学、東華大学、上海師範大学、上海水産大学、上海応用技術学院、上海杉達学院、上海建橋学院の7つの大学（短大）であり、工系、文系、総合大学、そ

して特色のある高等専門学校及び急成長の民営大学（短大）も入っている。

本アンケートの設計にあたって、読書傾向は、研究チーム自身の設計によるものであるが、心理健康測定に関しては、陳麗ら監修の『大学生心理健康』から「症状自己評価表」（SCL-90）を取り入れている。また、質疑応答については、簡単に「はい」とか「いいえ」とか答えられないものは多くて、大半は複数回答を選択肢にした。アンケートを5257部回収し、総回収率は95.8%である。男女の比率と学年分布の選定は合理的であることから、本アンケートの結果は、今時の上海大学の実情そのものを反映していると確信している。

本アンケート調査と並行して、学生懇談会と個別インタビューも行った。それは、大学生の考えと心をより詳細に知り、効果的な対策を出すためである。また、上海師範大学と上海応用技術学院図書館のデータベースを使わせてもらい、大学図書館の月毎の借覧実績、借覧のピーク時期、理系文系の違い等のデータを活用したのである。

2. 読書傾向について

2-1 対象学生の状況

対象の大学生を性別、学級、出身地に分類し、次の表1となる。四年生が若干少ないのを除けば、対象の分布と割合が合理的であり、現在の上海大学の代表的な傾向を示している。

表1 対象校と学生数

	上海水産大学	上海師範大学	建橋学院	杉達大学	応用技術学院	華東師範大学	東華大学	合計	%
学生数	1,089	319	617	64	1,172	904	1,092	5,257	
男性	421	86	285	1	472	305	556	2,126	40.4
女性	668	233	332	63	700	599	536	3,131	59.6
1年生	236	20	144	9	310	497	623	1,839	35.0
2年生	315	165	284	36	499	347	306	1,952	37.1
3年生	424	101	188	12	288	46	148	1,207	23.0
4年生	114	33	1	7	75	14	15	259	4.9
直轄市	485	215	426	51	859	416	564	3,016	57.4
省庁市	190	18	54	0	110	84	154	610	11.6
地級市	233	47	88	11	104	200	255	938	17.8
県級市	181	39	49	2	99	204	119	693	40.4

2-2 読書選択の男女の違い

結果によれば、読書選択における男女の差異が少ないことが分かった。文学類は首位で、図書館から借りる、自分で買う、友達から借りる、の順で並べられている。1日の読書時間について、80%は2時間以内である、と。また、半分以上は月に1-2冊、20%は3-4冊であり、一冊も読まない学生の割合について、女子は6.3%で、男子は11.4%で、男子が高いことが分かる。そして、図書館から借りる頻度についても、女子は男子より高い。月に一度も借りない割合について、男子が22.9%もあり、明らかに女子より高い。読書の場所について、女子は寮や家のようなプライベートな場所がもっとも好きで、次は図書館と教室である。在学期間中の読書ピーク期について、男子は学期中間、新学期、(夏冬)休み、期末、の順に対して、女子は、新学期、(夏冬)休み、学期中間、期末、の順となっている。

2-3 成績の良し悪しと兼職の有無による読書選択の差異

データによれば、28%の大学生は学業の以外に何らかの形で社会活動または職を兼ねている。彼らが自分の学業について、よいと答えたのは約28%で、普通だとは60%で、あまりよくないと答えたのは11.5%である。このデータを見る限りで、成績の良し悪し及び社会活動の参加や兼職の有無の違いによって読書の選択においては大した差異はなく、むしろ共通性のある選択傾向も見られるのではないかと。

2-4 学年による読書選択の差異

データでは、学年による読書選択の差異ははっきり出てない。但し、電子キャリアーの選択で、四年生は卒論の必要もあり、ネット定期刊行物の利用が少し増える程度である。(次の表2を)

表2 学年による電子キャリアーの使用状況 (%)

割合	電子キャリアー				
	ネット ニュース	ネット ゲーム	ネット 映画	電子図書	電子定期 刊行物
一年生の割合	40.3	19.3	45.9	32.0	12.8
二年生の割合	46.3	27.6	54.0	35.6	15.2
三年生の割合	46.6	22.7	47.6	38.4	15.2
四年生の割合	38.2	17.8	42.5	36.3	17.4

2-5 出身地による読書選択上の差異

出身地による読書選択上の差異はほとんど見られないが、大学入学の前と後には、読書状況に対する認識の変化は若干出ている。(次の表3を) 省政府所在地の出身者と比べ、地級市以下の地方出身の学生のほうが、入学前後の認識の変化はより明らかである。

表3 出身地による読書の変化 (%)

割合	読書の変化		
	明らか	明らかでない	ない
直轄市出身者	50.7	33.5	7.0
省庁市出身	53.0	33.6	6.9
地級市出身者	62.4	31.1	6.8
県級市出身者	63.2	27.1	4.0

2-6 読書の目的

データをみてわかるように、目的については、各大学とも「解題、質疑応答」と「実技実務の指導」の割合がもっとも高い。これは、読書の目的がはっきりし、学業を実に生かす今時学生の姿の表しなのではないかと思う。独学の力が強くて、積極的に読書、難問を解決し、いわば理論をもって実践を指導する姿である。一方、読書について、功利、実利を追求する一面も示されている。これは、読書は、もはや教養涵養または、気晴らし暇潰しだけのものではなく、実問題の解決と就職圧力への対処、といった生計を立てる手段に変わったのである。但し、文科系の学生は、どちらかといえば、気晴らしや暇つぶしのための読書がいまだに多いようである。

表4 読書の目的 (%)

割合	気晴らし 暇つぶし	解題、 質疑応答	視野広げ、 教養	実務実技 の指導	勉強の 強化	その他
華東師範大学	49.8	59.6	22.1	55.5	12.3	21.7
東華大学	29.7	47.1	15.9	35.0	9.8	14.2
上海師範大学	35.1	55.2	29.8	48.3	33.5	22.6
上海水産大学	37.8	50.2	19.5	51.1	14.5	19.1
応用技術学院	27.3	56.7	21.8	34.6	11.0	19.9
杉達大学	21.9	67.2	18.8	59.4	17.2	20.3
建橋学院	45.9	31.0	37.3	23.5	20.7	11.0
総平均値	36.5	51.0	22.4	41.6	14.3	18.0

2-7 読書の類別

表5の読書類別によれば、各大学とも外国語類がメインであることが分かった。これは、在学中に義務付けられる英語四級、六級の資格取得、海外留学に不可欠な TOEFL、IELTS 等の試験によるところが大きいと思われる。また、これら関連の入試参考書や情報処理類の書籍も高い割合を示している。これは、前述の分析結果も示したように、今日の学生の読書に実利実用の傾向が強い、とも言えるのではないか。また、専攻類と非専攻類の割合でみれ

ば、非専攻類書籍の読書は明らかに少ない。これまでの「教科書を主とし、教科書以外の専門書を大量に読む」方法は、今の大学生にはあまり利用されていないことが分かった。

表5 読書類別の統計 (%)

割合	専攻	非専攻	参考書籍	文学	外国語	情報処理	その他
華東師範大学	23.6	46.0	39.3	15.8	56.5	21.6	7.5
東華大学	10.8	18.1	18.6	17.9	43.6	14.8	11.8
上海師範大学	17.6	47.0	24.1	21.3	60.5	30.1	8.5
上海水産大学	14.7	28.7	22.0	18.8	56.4	24.9	11.2
応用技術学院	11.0	14.3	19.6	19.6	50.3	23.0	10.3
杉達大学	14.1	21.9	18.8	12.5	46.9	26.6	4.7
建橋学院	12.0	22.5	20.4	12.6	48.3	19.8	6.3
総平均値	14.5	26.6	23.7	17.7	51.7	21.6	9.7

2-8 読書の時間と冊数

表6 1日読書の時間と月に読書の冊数 (%)

割合	1時間以内	2時間	3時間	3時間以上	0冊	1-2冊	3-4冊	4冊以上
華東師範大学	16.5	55.3	30.1	6.4	8.6	7.6	56.5	16.9
東華大学	16.2	50.5	25.9	4.2	3.7	9.7	51.9	14.7
上海師範大学	17.6	50.2	35.7	5.6	7.8	4.7	61.8	16.9
上海水産大学	13.6	43.6	37.1	9.5	8.5	7.3	51.7	23.8
応用技術学院	17.7	48.7	39.5	7.5	3.9	10.2	53.3	25.5
杉達大学	18.8	46.9	35.9	7.8	3.1	6.3	51.6	17.2
建橋学院	22.9	43.9	37.8	9.4	8.9	7.3	47.6	23.2
総平均値	17.0	48.8	34.1	7.2	6.5	8.4	53.2	20.6

上記表6によれば、大学生のほとんどが1日に2-3時間、月に3-4冊という結果にしてみれば、読書は、大学生たちの学習生活にまだ重要な位置だ、と分かった。授業と相当の宿題や課外学習のほか、毎日3時間も読書に使われ、しかも、平均にして、週に一冊を読みきる、

これは、なかなか気力と体力の要る行為であろう。したがって、大学生の気質や素養を培うために、読書の役割はまだ大きく期待できると信じている。一方、まったく読書もせずしている学生も6.5%、との結果も出ている。これは、大人へと成長している、読書を本分とすべき大学生にしてみれば、憂慮すべきものだろう。

2-9 高校時代と大学時代の読書状況に関する比較

表7 高校時代と大学時代の読書の変化 (%)

割合	読書の変化			変化の原因		
	変化顕著	変化曖昧	変化無し	時間増加	書物増加	その他
華東師範大学	27.8	65.6	29.6	26.3	50.1	51.7
東華大学	18.3	43.7	29.7	22.5	35.8	24.4
上海師範大学	27.3	61.8	35.1	36.4	58.3	43.9
上海水産大学	21.7	62.1	31.0	27.3	51.8	35.9
応用技術学院	24.9	52.7	33.1	31.0	45.0	31.8
杉達大学	31.3	42.2	45.3	26.6	51.6	29.7
建橋学院	39.5	45.5	37.6	32.4	48.1	33.4
総平均値	25.3	54.7	32.2	28.1	46.7	35.5

われわれは、彼らの高校から大学卒までの読書状況についても調べた。結果として、大半はあまり変わらない、または、まったく変わっていないという結果である。少ないが、変わった原因について、高校時代より大学時代のほうが借りられる書物の量が増える、と。これは、大学生の読書習慣は、ほぼ中学・高校の時代にできたことを意味している。一方、大学に入っても、中高の読書習慣がそのままであることは、読書指導や読書促進の措置は、大学当局があまり講じられてないことも意味している。

2-10 読書のピーク期

よくは、夏休みと冬休みは読書のよい時期だ、と思われるようではあるが、データによれば、大学生の読書ピーク期は学期の中間と終わりの時期との結果になっている。これも大学生読書の功利性と実用性を実証した数字である。かれらの読書は好みではなく、いろんな受験のためである。一方、彼らの読書時間と量に関していえば、まだ増やす余裕があるとも理解している。ポイントは大学、図書館の読書促進措置にあると思う。

表8 読書のピーク期

	学期開始	学期中間	学期終了	休暇期間
華東師範大学	28.5	37.8	26.5	20.5
東華大学	6.0	27.9	26.4	16.2
上海師範大学	32.9	39.8	21.9	20.4
上海水産大学	21.6	35.3	32.8	19.8
応用技術学院	8.7	24.1	29.2	24.2
杉達大学	23.4	42.2	17.2	18.8
建橋学院	15.6	39.1	22.4	15.7
総平均値	16.7	32.5	27.6	19.7

2-11 読書の選択

表9 読書選択状況

(%)

割合	作品 そのもの	作者 個人魅力	知を 求める欲	興味	社会 影響	図書館	先生	クラス メート	友達	家庭
華東師範 大学	79.9	61.2	43.9	27.8	67.4	19.0	10.8	9.6	16.8	19.5
東華大学	58.8	40.2	30.3	23.8	40.6	12.3	7.1	6.5	8.9	11.4
上海師範 大学	62.4	62.4	41.4	32.9	63.6	37.9	12.5	9.4	14.1	15.7
上海水産 大学	72.7	47.9	37.3	28.5	59.0	17.1	8.5	5.9	10.7	15.9
応用技術 学院	67.5	38.6	42.9	25.3	45.7	13.4	12.2	7.9	14.8	13.7
杉達大学	70.3	46.9	28.1	26.6	64.1	25.0	7.8	7.8	12.5	14.1
建橋学院	51.2	40.0	30.5	46.8	33.2	17.5	7.5	12.0	13.5	9.7
総平均値	66.8	46.5	37.6	29.1	51.0	17.0	9.6	9.8	12.9	14.4

読書対象の選択に際し、作品そのもの、作者の魅力、社会的影響がまず挙げられ、そして、勉学や自己啓発等も考慮に入れるようではあるが、図書館、先生、家庭等による影響は少ない。これは、強い独立自主性、強いといえばネガティブイズムの表れとも受取れる。一方、先生と図書館はこの面においてはあまり責任を尽くしていないとも受取れる。

2-12 読書の指導

大学生は思考力が活発で知を求める欲が強い一方、情緒的に不安定、心理的発達未熟、

社会的見方や人生経験はまだ成長段階に、のも事実で、先生と友達の指導が必要である。表10によれば、最も先生に指導してもらいたいのは専攻類のもので、資格取得のための参考書でもない。非専攻類の、個人の成長に役に立つ図書である。

表10 先生の読書指導が必要とする状況の統計表 (%)

割合	専攻類	非専攻類	参考類	文学類	外国語	情報処理	その他
華東師範大学	6.2	71.8	10.8	20.0	10.3	11.8	18.3
東華大学	3.7	44.7	9.3	16.8	11.1	11.2	12.7
上海師範大学	19.1	42.3	36.4	16.6	12.2	11.6	21.3
上海水産大学	2.5	55.7	14.4	21.9	11.3	17.8	20.8
応用技術学院	2.7	41.0	13.7	25.8	18.9	18.2	19.5
杉達大学	15.6	51.6	21.9	23.4	9.4	17.2	12.5
建橋学院	18.3	36.3	27.4	15.1	14.7	15.1	15.2
総平均値	6.5	49.9	15.5	20.3	13.2	14.8	17.7

3. 現代上海の大学生が図書借覧状況の分析

われわれは、上海師範大学と上海応用技術学院を事例として取り上げ、両大学図書館の借覧のデータについて、次の三つの角度から分析を行った。一つ目は、月に借覧の量、二つ目は、月に一人あたり借覧の量、三つ目は、文科系と工科系の読書傾向。結果は次のとおりである。

3-1 月に図書館借覧の量

学生たちの図書館図書借覧の実態を知るため、次の表11のように、丸1年間のデータを取り上げてみる。

表11によれば、借覧量の最も多いのは11月と12月、次は9月と3月、4月の順で、7月と8月は一番少ない。年後半は前半より多いが、(夏冬)休みの前後は平日より数が落ちる。これは、年前半に卒業学年の実習と卒業、年の後半は新生が入ってくること、また、休暇期間中、図書館時間の短縮によるものだと考えられる。これは、前出の読書ピーク期の結果とも一致している。確か今の大学生は、読書選択に関して功利性と実用性に偏っている。但し、読書量の減少は、時間がないのではなく、その読書欲を引き出す原動力が足りないのではないかとみている。

表11 図書の借覧の量について

単位：冊

	上海師範大学	上海応用技術学院	合計
2006年2月	5,666	1,463	7,129
2006年3月	7,787	3,466	11,253
2006年4月	8,088	3,397	11,485
2006年5月	6,594	2,544	9,138
2006年6月	6,411	3,713	10,124
2006年7月	426	1,080	1,506
2006年8月	283	183	466
2006年9月	6,989	5,237	12,226
2006年10月	5,122	4,129	9,251
2006年11月	8,589	5,208	13,797
2006年12月	9,319	5,383	14,702
2007年1月	6,334	4,683	11,017

3-2 月の借覧の量について

その借覧の中身をより詳しく知るため、一人当たりのデータも統計にあげてみた。結果は表12のとおりである。

これによると、月一人当たり借覧数量の変化は、全体の月借覧総量の変化と正比例になっていることがわかった。若干違っているのは3月と4月、借覧総量は一番多いのではないが、一人当たりの借覧の量は最も多い。それは、3月と4月の二か月は卒論を書く時期なので一人当たりの量が多いわけである。一人当たりの量が二番目に多いのは9月であり、新入生による借覧だと考えられる。大学休暇中についてみれば、全体的の数も一人当たりの数も少ない(夏休み人あたり1.85冊、冬休み人あたり2.01冊)。長い休暇期間にもかかわらず、あまり読書に時間を投入してない、今時大学生の実態をよく反映しているといえよう。

表12 月人あたり借覧の量

月	上海師範大学		人平均借覧 (冊)
	人 次	冊 数	
2006年2月	2,339	5,666	2.42
2006年3月	2,949	7,787	2.64
2006年4月	3,081	8,088	2.63
2006年5月	2,627	6,594	2.51
2006年6月	2,558	6,411	2.51
2006年7月	267	426	1.60
2006年8月	117	283	2.42
2006年9月	2,696	6,989	2.59
2006年10月	2,160	5,122	2.37
2006年11月	3,356	8,589	2.56
2006年12月	3,547	9,319	2.63
2007年1月	3,623	6,334	1.75

3-3 文系と工系の読書傾向

文系と工科系の違いについて、次の表13のとおり、ある文系大学と工科系の大学を事例に分析してみる。対象の図書を、専門類、文史類、外国語・情報処理、その他、という4大類に分けた。

表13で分かるように、専門類を選択する最も多い文系の学生に対し、工科系は文史類の選択が一番だと分かった。その原因は、おそらく文系の中には、国文国語専攻の学生も含まれており、彼らが借覧した(文学)文芸関連のものは、彼らの専攻と同じの専門図書であるが、彼らが借りた文史類の図書は単なる歴史類のものに限って文学類は入っていない、とみてもいいのではないと思う。

表13 両大学の文科系と工科系の読書状況

類別	借覧状況	上海師範大学				上海応用技術学院			
		専門類	文史類	外国語・ 情報処理	その他	専門類	文史類	外国語・ 情報処理	その他
文科	数量	26,371	15,553	5,627	10,247	4,101	1,830	1,859	1,347
	割合(%)	45.6	26.9	9.7	17.7	44.9	20.0	20.4	14.7
工科	数量	3,720	4,159	2,090	3,833	8,332	9,164	6,798	5,984
	割合(%)	27.0	30.4	15.1	27.8	27.5	30.3	22.5	19.8

4. 現代上海大学生の読書心理について

われわれは、学生たちの読書心理についても調査した。そのアンケートの分類と、統計の結果は次の表14である。

表14 読書心理（態度）の分類と統計 (%)

割合 類別	盲従	落着か ない	物臭い	いい 加減	偏愛	功利	不良読書 態度無し	不良読書 態度有り
対象校全体	41.5	66.0	44.5	19.0	45.6	19.9	22.5	77.5
男生	41.7	68.0	48.4	21.5	46.7	20.6	23.3	76.7
女生	41.4	64.6	41.7	17.3	44.8	19.3	21.9	78.1
一年級	36.9	65.9	40.9	14.7	43.8	16.0	24.9	75.1
二年級	42.1	66.9	46.1	21.7	46.8	21.8	23.7	76.3
三年級	46.7	64.8	46.2	22.9	45.2	22.9	18.4	81.6
四年級	44.4	65.4	49.0	9.3	49.8	16.7	15.6	84.4
直轄市出身	43.3	67.1	45.8	21.2	46.3	21.5	23.2	76.8
省庁市出身	47.1	71.1	52.4	17.7	47.6	22.7	17.6	82.4
地級市出身	37.1	64.3	40.7	16.9	45.0	16.4	22.5	77.5
県級市とその以下の 地方出身	35.8	59.2	37.8	14.0	41.5	15.6	23.9	76.1

4-1 上海大学生の70%以上は、上記の表14で指摘するような「不良読書心理」の一つまたは一つ以上持っている。彼らにとっては、固定的な作品はなく、特定類の読書に偏っている。何を読めばいいか分からない、手当たり次第で何もかも読む、世の流れに追って本を選ぶ、ベスト・セラーと実用本だけで済ませる、読書に伴う思考は少ない、丸一冊読みきれない、読み終わっても頭に残らない、読み始めたら気分が落ちる、ちょっと読んだらすぐ眠くなるなどなど、これらのすべては不良の読書心理といえる。もちろん、「不良読書心理」が持つから、すぐには読書が嫌いというわけではない、事実、読書を生活の重要な一部としている学生も多いから。しかし、適切な読書のアドバイスはない、何を読むか分からない彼らは、人の言いなりまたはマスコミの推薦で本を決めたりする。無思考で、読書の蓄積にはならない。読書について、期待なし、目的なし、無企画、無収穫等の現象がよく見られる。

4-2 「不良読書心理」の中で最も比率の高いのが、落ち着きのない心理、66%もある。続い

て、偏愛心理、ものぐさい心理、盲従心理、いい加減心理の順である。読書質低下の原因について、学生たちは、みんな外部環境によるところが大きいと回答した。たとえば、社会的ストレス、学習環境、教育制度、世間気風などが挙げられている。受験、就職、生活面のストレスに起因したストレスは、読書を功利的、実用性なものに走らせ、気晴らし・暇つぶしの読書風潮は、ますます強まる一方、知を求める読書の目的が次第に弱くなる。本当は、読書の時間がないのではなく、落ち着いて読書はできないのである。

4-3 不良読書傾向の発生率は、女性より男性のほうが高い。大都市からの学生は地方からの学生より高い。男性と比べ、女性はより読書好きで、まじめである。また、大都市よりは地方出身者のほうが読書好きで、真面目である。

4-4 大学間の差異は少しある。表15はその分析の結果である。

表15 大学別の読書心理

(%)

各種心理 の割合	盲従 心理	落ち着き のない	物臭い	いい加減	偏愛	功利	不良読書 心理無し	不良読書 心理有る
上海水産 大学	33.5	59.9	31.1	8.0	42.0	19.3	17.2	82.7
応用技術 学院	43.4	70.0	52.3	12.9	49.8	15.2	24.0	76.0
華東師範 大学	26.6	56.8	33.1	8.8	43.0	10.9	21.4	78.6
東華大学	37.4	70.4	46.9	13.1	46.8	15.8	29.6	70.4
上海師範 大学	44.8	62.4	44.5	6.0	53.0	11.0	32.2	67.8
杉達大学	42.2	71.9	23.4	10.9	42.2	10.9	23.4	76.4
建橋学院	78.9	77.3	69.3	82.4	42.3	54.7	12.7	87.3

文科系大学の学生は工科系大学の学生より読書心理状態がよい。対象大学の中、とりわけ上海師範大学、東華大学、華東師範大学学生の状況がよい。これは、大学の文化的雰囲気や人文素質関連の教育が大事にされていることが考えられる。

5. 現代上海大学生に対する読書指導の強化

上記の分析でわかるように、現代の上海大学生の読書状況は、全体的にはよいものの、いわゆる「不良読書傾向」を持つ学生もがかなりいる。大学の教養教育は、近代化、功利化、グローバル化の挑戦とプレッシャーの影響を受けて、幼児教育と中小学校の教育現場においても、余りにも早期に理系と文系のクラス分けに走っている。また、中学高校の時期より理系偏重、サイエンス重視のせいもあって、大学に入った学生たち人文的な素養は非常に貧弱ものである。現代の大学教育は、読書を活用しなければならない。読書を通じて人生の趣を求め、独立思考を学び、かれらの新たな人生設計に手助けをする。

5-1 読書教育を人生の目標と原動力に

異なる社会環境、家庭、個人の発達により、学生たちの読書傾向と心理特徴にも違いがあるし、常に変わっている。また、時間と環境の変化によっては、他の類に変わる可能性もある。表14によれば、上の学年は下の学年よりも不良読書の傾向がはっきりと表している。盲従、ものぐさい、偏愛の心理は特に強い。不良読書の割合について、一年生は最も低く、読書状況でいえば、わりとよい状態にある。最も落ち着きのないのは二年生である。三年生になれば、いい加減と功利の傾向が強くなるが、四年生は偏愛の傾向が強い。それは、いったん大学に入ったら進学のプレッシャーはなくなったのである。新たな目標と原動力がなければ、新入生の旺盛な意気込みが失われてしまう。このまま三年生になれば、いい加減と功利性の一面が強くなってきて、次第に生活の目標が見えなくなるわけである。

5-2 読書教育で読書の楽しみと教養を

進学至上、ファーストカルチャ、ネットカルチャの時代に生まれ、育った若者に対して、読書教育は如何にして読書への興味、楽しみを覚えさせるのか、大事である。

5-3 読書は悩み解決の有効的な手段とルート

心理アンケートによると、身体、精神、睡眠と飲食などを含む多様な心理困惑（悩み）にかかっている学生は43.6%もある。そのうち、カウンセリングと治療が必要とされる、 심각한心理問題は12.4%。データによれば、読書を通して心理困惑の解決の割合は38%、特に性的な困惑と就職圧力の場合、図書館に助けを求める割合は一番高い。

学生懇談会では、落ち込んだ時や心理困惑の際に、心を励ましてくれる本を読んだりして

難関を乗り越える、との発言は多かった。特に作者と同じ境遇または、書かれた人物やストーリーとの出会いによって、ストレスが発散したり、心が静まり、との効果がある、と。「本は薬のごとく、よく読むと無知が治される」のように、「読書療法」と言われるほどの、読書を活用する医療的な手法もあるから。

6. 読書の促進に図書館側の思考と対策

大学生の読書を促進し、大学生の教養を向上させるには、現場の先生だけでなく、図書館関係者の使命と責任でもある。

6-1 図書館資源の整備に大学生の参与

アンケートによれば、図書選択に対する大学生の自主性が非常に高い。非専門だけでなく専門読書の選択もそうである。従って、図書館側は図書を仕入れる時、できるだけ大学生の意見を聞かなければならない。大学図書館では、教員と学生に、それぞれ図書購入推薦リスト（ネット）と、ペーパーによる図書購入意向はあるが、あまり関心を持たれてないのも事情である。図書館館員の意向で決まるのが多い。対策として、例えば、学生の図書購入制度の確立、定期的に学生を集めて図書選定の作業をする、あるいは、今の「学生図書管理グループ」を図書館図書選定にも活用させるとの方法も考えられる。

6-2 図書館係りの質の向上

アンケートによれば、よい読書のためには先生の指導が必要とされているが、図書館の係員は文献資料の管理者だけでなく、情報の案内係ガイドとして異なる読者集団の読書傾向を知るべきである。読書指導・書籍鑑賞といったような科目を開設し、大学生教養のためのカリキュラムとして、在学の4年間中を通して学ばせる。

6-3 読書の宣伝と指導の強化

書評、読書活動の紹介、映画等といった方法を活用し、学生の興味を引き付ける。ほかに、壁新聞、ネット、ブログといった方法もある。要は、動員可能な手段で、ありとあらゆる方法を活用して読書の楽しみを知ってもらうことである。

6-4 学生担当部署の活用

学生担当部署の活用も考えなければならない。大学本部の学生管理部から末端の学生部活動まで組織的に浸透していく方法である。

6-5 読書関連団体への指導

読書団体は読書が好きな学生たちによって組織された団体である。彼らの読書への熱情、読書の心得は周りの学生たちに強く影響を与えるだろう。従って、図書館側は読書団体への指導と引導を強め、その役割をよく発揮させ、知らず知らずのうちに学生たちに影響を与え、読書の興味を引き起こさせる。

6-6 積極的に愛読な雰囲気を作ること

図書館側は、積極的に愛読な雰囲気を作るべきである。図書館館舎の設計、周囲環境の設計、人に優しい利用規則と優しいサービス態度、さまざまな読書活動などをもって読書への興味を引き付ける努力をしなければならない。

7. 大学全体としての読書教育を

読書教育は、教養教育の一環として有効な方法である。大学全体的な対策が必要とし、読書教育関連科目の新設と履修制度も不可欠である。

7-1 正しい読書教育理念

アンケートでは、読書習慣の大半は、中学高校時代に形成され、一部は小学生の時から、との答えもあった。われわれとしては、正しい読書習慣を身に着けるのは、大学教育の責任だと考えている。

学内誌、学内放送、学内ネット、壁新聞、部活サークル、図書館、教員、クラス担任、ありとあらゆる大学資源を動員し、読書教育に活用すべきである。

7-2 1年生から読書必修科目と選択科目を開設

名著、古典などを必修または選択科目として新たに開設する。専門読書指導をうけて、学期ごとに、1-2冊程度の名著と古典を読む。必要な単位を与える。

7-3 読書指導によい教員

よい読書はよい指導が必要で、よい指導には適任の教員が大切である。

7-4 読書に奨励制度の導入

教員評価に、読書指導の項目を入れる。更に、優秀学生の選考、大学院へ院生枠の推薦、賞学金の配分、就職の推薦にも、読書との関連を付けたほうが有効かもしれない。

参考文献

1. 陳路「文献利用過程における読者の読書傾向による影響に関する分析」、『農業図書情報学刊』2005年第17期(8月)、P43-45
2. 王東・張文東「文学読書における読書心理」、『長春師範学院学報』2003年、第22期、4月号
3. 陳麗・張日再主編『大学生心理健康』大連理工大学出版社、2006年8月
4. 王析・呂杉江「ネット活用の読書療法で大学生に心理健康教育を」『教育探索』2006年5月第179期、P113-114
5. 甘陽・陳来、蘇力『中国大学における人文教育』、生活・読書・新知三聯書店、2006年8月

Concerning the reading tendency of the present Shanghai University students

Jun YE^{*1*2}, Jian ZHANH^{*2}, Yazhen GUO^{*2}, Xian LIANG^{*2}, Joi HO^{*3}

^{*1}Department of Humanities, Faculty of Humanities, Kyushu Women's University

^{*2}Shanghai Ocean University

999 Hucheng Ring Road, Lingang New City, Shanghai 201306

^{*3}Department of Humanities, Faculty of Humanities, Kyushu Women's University

1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi, Fukuoka, 807-8586, Japan

Abstract

To examine the tendency of reading and the reading psychology of the Shanghai university students, students from five different types of universities with different hometowns, majors, genders, and academic levels were asked to participate in a research survey and along with the survey, reading guidance and net reading, etc. were also researched.